

令和 2 年 8 月定例

伊達市教育委員会 会議録

令和 2 年 8 月 20 日開催

令和2年8月定例伊達市教育委員会会議録

1. 開催日時 令和2年8月20日（木）13時30分～
2. 開催場所 伊達市役所東棟3階 庁議室
3. 出席者 教育長 菅野 善昌
1番 高野 保夫 委員（教育長職務代理者）
2番 菅野 千恵子 委員
3番 三品 清重郎 委員
4番 関根 勝富 委員
4. 欠席委員 なし
5. 説明のため出席した者
教育部長 田中 清美
教育総務課長
（兼学校給食センター所長） 土田 一紀
生涯学習課長 森林 敏昭
学校教育課長 熊澤 正人
こども部長 橘内 重康
こども支援課長 寺田 和也
こども育成課長 桃井 秀孝
教育総務課主幹（教育施設担当） 佐藤 真
6. 本委員会書記
教育総務課総務企画係長 富田 昭子
教育総務課総務企画係主事 大橋 勝

7. 日程1

○菅野教育長 令和2年8月定例伊達市教育委員会会議を開会します。本日は全員出席しているため、会議が成立しました。開会時刻は13時30分です。

8. 日程2

○菅野教育長

会期決定についてお諮りします。会期は、本日20日にしたいと思います。異

議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、会期は本日20日と決定します

9. 日程 3

○菅野教育長 議事録署名の指名に移ります。本日の議事録署名は、3番三品委員と4番関根委員にお願いします。また、7月定例会の会議録は三品委員と関根委員に、7月臨時会の議事録は高野委員と菅野委員に署名いただいておりますことを、ご報告いたします。

10. 日程 4

○菅野教育長 本日の会議の進め方について、土田教育総務課長から説明をお願いします。

○土田教育総務課長 会議次第により説明

1 議 事

議案第30号 伊達市立学校設置条例の一部を改正する条例について

議案第31号 伊達市ふるさと会館運営審議会委員の委嘱について

議案第32号 令和2年度伊達市一般会計補正予算（教育委員会分）について

議案第33号 令和2年度伊達市一般会計専決補正予算（教育委員会分）について

2 協議

1 「伊達市総合教育センター」の具体的な構想案と設立に向けての今後の作業スケジュールについて

2 中学生の通学時の背負い鞆の重量（8～10キロ）の軽減化の工夫について

3 伊達市の小中学生の基礎学力向上への具体的な取組みについて

3 報告

11. 日程 5

○菅野教育長 傍聴希望の方はいますか。

○富田総務企画係長 いません。

12. 日程 6

○菅野教育長 「議案第30号 伊達市立学校設置条例の一部を改正する条例について」学校教育課長から説明します。

○熊澤学校教育課長 資料により説明

○菅野教育長 議案第30号について、委員の質疑をお願いします。

○高野委員 大石地区では同意が得られたという事だが、問題なく進めることは出来るのか。

○土田教育総務課長 統合は賛成が得られた。閉校式や記念誌作成などの時間が短いのではと意見があった。

○菅野教育長 伊達市立学校設置条例の一部を改正する条例について可決をいただき、9月定例議会で提案をする。

○高野委員 富成小学校が上保原小学校と統合される際、スムーズに展開しなかったため、大石小学校の場合も慎重に対応しなければいけないと感じている。梁川地区の統合の経験を伊達市教育委員会は持っているため、経験を活かすべきである。大石と掛田の交流を積極的に持ち、良い人間関係を築き、保護者、地域住民から不測な発言が出ないようにしなければならない。

○菅野教育長 他になればこれより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、「議案第30号 伊達市立学校設置条例の一部を改正する条例について」原案のとおり可決されました。

次に「議案第31号 伊達市ふるさと会館運営審議会委員の委嘱について」生涯学習課長から説明します。

○森林生涯学習課長 資料により説明。

○菅野教育長 議案第31号について、委員の質疑をお願いします。

質疑なしと認め、質疑を終結します。

これより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、「議案第31号 伊達市ふるさと会館運営審議会委員の委嘱について」原案のとおり可決されました。

次に「議案第32号 令和2年度伊達市一般会計補正予算（教育委員会分）について」各担当課長から説明します。

○土田教育総務課長 資料により説明

○佐藤教育総務課主幹 資料により説明

○森林生涯学習課長 資料により説明

○熊澤学校教育課長 資料により説明

○土田学校給食センター所長 資料により説明

○寺田こども支援課長 資料により説明

○桃井こども育成課長 資料により説明

○菅野教育長 委員の質疑をお願いします。

○高野委員 伊達小学校改築事業費の補正理由と事業説明をしてもらった。今年度予算の補正対応で工事の遅れはないのか。

○佐藤教育総務課主幹 実施計画を作成しており、8月末まで工期がある。現時点で学校の全体事業費が把握できた。そのため9月補正により予算を計上する。全体計画は昨年の台風19号の影響により遅れは出たが、現在おおよそ計画通り進んでいる。

○高野委員 遺跡調査も現在同時に進行しているのか。

○佐藤教育総務課主幹 遺跡調査は11月まで実施する。その後、書類の調査となる。開校は計画通りの予定。

○高野委員 今年度、通学合宿所の利用は新型コロナウイルスの影響により中止となった。トライアル事業を検討と記載しているが、その中身は具体的にどのようなものか。

○森林生涯学習課長 次年度につなげるために公園内でのハイキング、草木の観察や昆虫を見つけるネイチャーゲーム、天体観測や展望広場を活用しての活動、キャンドルサービスなど総合公園を活用する事業を検討している。

○高野委員 現在の小学5年生は昨年度までは何らかの形で学校外での体験ができた。トライアル事業は小学5年生を対象とした事業と考えて良いのか。

○森林生涯学習課長 小学5年生を対象とした事業ではない。大人数では実施できないため、各学校に参加者を募って実施していきたいと考えている。

○高野委員 小学5年生になると校外学習など、例年は活動が予定されているが今年は新型コロナウイルスの影響により、活動ができない。その活動の代わりにトライアル事業で小学5年生の活動に充てることができればと考える。

○森林生涯学習課長 合宿事業を一泊二日など短縮し実施できないか検討してきたが、人数制限や密状態を回避することが困難であることから、実施には至らなかった。現状では少人数を対象とした事業を実施していきたい。

○菅野教育長 通学合宿事業は、学校行事ではない。学校の教育課程に位置づけられている体験活動ではなく、生涯学習の一環として実施していく。このような活動が各学校で行われたことはなく、伊達市の生涯学習の一環として子ども達の心を育てたい。

○高野委員 小学5年生が合宿所から学校に通うということを楽しみにしていたが、中止になり悲しんでいるのではないかと感じている。

○菅野委員 ボランティアを募り研修も予定していたが、新型コロナウイルスの影響により中止となった。小学5年生を対象としたトライアル事業を検討してみようことを提案したい。少人数の募集をするのであれば、小学5年生の希望者を募って実施すれば、楽しめるのではないか。

○田中教育部長 通学合宿所での活動を楽しみにしていたという意見をもらっている。全ての小学5年生が活動することは困難であるが、トライアル事業の中で小学5年生に限定した企画や、小学5年生の応募を優先させるなど、今後検討していきたい。

○三品委員 9月補正の中に教員を補助する予算が計上されると思っていたが、見当たらない。この後の専決補正予算ではGIGAスクール構想で予算が計上されている。新たな事業は行うが、教員をサポートするための予算が計上されていない理由はあるのか。

○熊澤学校教育課長 県費教職員の場合は、超過勤務手当などがないため、そのような補正はない。新型コロナウイルス感染症対策の衛生用品を充実させることや、スクールサポートスタッフを各学校に配置することで対応している

○三品委員 超過勤務手当は出ないが80～100時間の超過勤務を行っているように思う。スクールサポートスタッフも各校に1名と少なく、教員の業務軽減につながるのか疑問が残る。伊達市として教員をサポートするための予算を組むべきではないか。

○田中教育部長 小規模校では対応できていないが、県予算とは別に事務補助を本市で配置しており、当初予算で計上をしている。国、県でスクールサポートスタッフの予算化をしているため、今後その点を含めて検討していきたい。

夏季休業中に8月8日から14日までを伊達市としては完全休校としたが、配慮が足りず研修を入れてしまった。今後も教員の多忙化解消には引き続き取り組んでいきたい。

○三品委員 負担軽減に努めていても残業時間が減ってはいない。市として予算を計上し、対応することが必要であると感じる。

○高野委員 超過勤務上限をはるかに超えている教員が伊達市以外でも見られる。予算化は困難だと思うが、教員をサポートする取り組みを充実させるべきであると考えます。

○菅野教育長 財政的な支援も出来れば良いと思う。校長会で、この機会に学校の役割は何なのかという事をもう一度原点に振り返り考え、削ぎ落とせることは削ぎ落とすべきと伝えている。削ぎ落とさなければ今までと同じように業務が膨らんでいく。校長にソフト面から様々な工夫をするように伝えている。

学校から提出される超過勤務調査について学校教育課長から現状を踏まえ、説明をお願いします。

○熊澤学校教育課長 7月の超過勤務データが提出された。月80時間を超える

教員は6名だった。1名は教諭、他5名は教頭。理由は7月31日まで授業が行われていたこと。教諭の理由は生徒指導の対応であったが、具体的な指導方法が決定したため8月には解消する予定。しかし見えない所での負担は大きいと考えられる。4月から6月までの間に1～2名の教頭が80時間を超える超過勤務を行っていたという報告があった。

○三品委員 消毒作業を外部に委託することは難しいか。

○田中教育部長 4～5月の休業期間中、雇用を守るという意味で給食配膳員や用務員の同意を得て、消毒作業をお願いし、教員の負担軽減に努めた。

学校施設は児童生徒が下校した後に教員が消毒をしている。その後、地域住民に利用されていたが、利用後の消毒作業が確認困難だったため、6月末まで開放していなかった。他の市施設も開放したため、学校施設も開放することとし、消毒有無の確認は各団体でしてもらい、極力教員の負担軽減に努めている。

○菅野教育長 PTAの方々に声をかけ、ボランティアを募り学校運営に協力してもらう。また中学校では委員会活動の一環として生徒に協力してもらう。全体の事を考えながら、活動に加わる事で教育的意味も大きいものになる。子ども達の活動の場、教育の場として活用してもらいたい。これからも様々な方法を考えていきたい。

他に委員から意見はありますか。

○菅野委員 各地域で成人式の後に立食パーティーなどを行っていたが、合同開催の場合、立食パーティーは予定していないという事か。

○森林生涯学習課長 成人式も新型コロナウイルスを抑止しながら1カ所で開催する方法を現在検討中。会場の席も1階2階に分け、距離を取る計画を立てている。立食パーティーも交流を深めるために重要ではあるが、今回は感染拡大防止の観点からも自粛をするという事に決定した。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

質疑なしと認め、質疑を終結します。これより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、「議案第32号 令和2年度伊達市一般会計補正予算（教育委員会分）について」原案のとおり可決されました。

次に「議案第33号 令和2年度伊達市一般会計専決補正予算（教育委員会分）について」各担当課長から説明します。

- 熊澤学校教育課長 資料により説明
- 桃井こども育成課長 資料により説明
- 森林生涯学習課長 資料により説明
- 熊澤学校教育課長 資料により説明
- 寺田こども支援課長 資料により説明

○菅野教育長 委員の質疑をお願いします。

○高野委員 生涯学習課管轄の施設について、感染症対策の説明があったが、市立図書館の衛生資材等は購入しないのか。

○森林生涯学習課長 市立図書館の衛生資材は新型コロナウイルス対策本部で一括購入するため専決補正予算には含めていなかった。

○高野委員 サーマルカメラ等設置のための予算計上はないが、既に市立図書館には設置してあるのか。

○森林生涯学習課長 サーマルカメラはないが、非接触型体温計は常設してある。

○高野委員 市立図書館は生涯学習課管轄のため、専決補正予算の項目に挙げても良いのではと感じた。

GIGAスクール構想における公立学校情報機器整備事業は今までと、どのように変わってくるのかについて補足説明をお願いします。

○熊澤学校教育課長 1人1台のタブレット購入と使用するための高速回線整備を現在行っており、今回は学校からの遠隔学習機能の強化、家庭学習のための通信機器支援を行う予算を計上した。具体的には学校にウェブカメラとスピーカーカーフオンを設置し、オンラインで児童生徒とやり取りをできる様にする。またインターネット環境が整っていない家庭へのモバイルルーター準備支援も含まれる。

○田中教育部長 モバイルルーターはインターネット環境が整っていない家庭全てに配布するというわけではなく、準要保護、要保護家庭に配布する。

サーマルカメラはイベント開催時に体温測定を効率よく行うため、ふるさと会館、梁川美術館に設置する。

○三品委員 モバイルルーターはインターネット環境が整っていない家庭全てに配布というわけではないと説明があったが、本市でインターネット環境が整っていない家庭の割合はどのくらいあるのか。

○熊澤学校教育課長 約2割の家庭はインターネット環境が整っていない。

○高野委員 約2割の家庭は学校とのやり取りが出来ないと思われるが、その場合はどのように対応するのか。

○熊澤学校教育課長 約2割の中にはテザリング機能（モバイルデータ通信ができる端末を利用して、PC、タブレット、ゲーム機などをインターネットに接続すること）が使えないという家庭も含まれる。予算上インターネット環境が整っていない全ての家庭にモバイルルーターを設置することはできない。またインターネット環境が整っていないと嘘の報告をしてきた家庭へ拒むこともできなくなってしまう。整合性を図りながら、進めていく。

○三品委員 テザリング機能は全てのスマートフォンで対応できると思うが、使えないものもあるのか。

○熊澤学校教育課長 1人1台のタブレットを家庭でつなげようとする際、テザリング機能でインターネット環境に接続できるかは不明である。

○田中教育部長 家庭でのインターネット環境はウイルス対策ソフトが入っているか、また更新もされているかなどの懸念がある。ウイルスに感染した状態で、学校で充電をし、データをアップロードすると他のタブレットにウイルスが感染してしまう恐れがある。そのため、テザリング機能を使用することは今後検討する必要がある。

定額月20ギガの契約をしている家庭の子どもがタブレットを使用したために20ギガ以上使用に、超過料金を支払ってほしいと言われることも想定される。その点について国も、どのように対応するのかという方針は出していない。

○高野委員 GIGAスクール構想における公立学校情報機器整備事業は小学校の場合8,400万円、中学校の場合4,100万円を一般財源から投入するが、タブレットを有効に活用するために、ICT支援員が必要と感じる。今回の予算には含まず、今後検討するというのか。

○熊澤学校教育課長 文部科学省はICT支援員を活用し、指導を行う方針である。月舘学園ではICT支援員が常駐し、機器の使い方、授業の構築等で教員に助言していることで機器を有効に使えている。来年度市内の4校に1人の割合で配置できる様検討している。

○三品委員 教育委員会の地方創生臨時交付金はどの程度割当られているか。

○田中教育部長 後程お伝えする。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

質疑なしと認め、質疑を終結します。これより採決に入ります。本案は原案のとおり決することに異議ありませんか。

【委員より異議なしの声あり】

○菅野教育長 異議なしと認め、「議案第33号 令和2年度伊達市一般会計専決補正予算（教育委員会分）について」原案のとおり可決されました。

○熊澤学校教育課長 先ほどの説明の補足。約2割の家庭はインターネット環境が整っていないと報告したが、回答した児童生徒のみで約2割という事だった。今回補正予算を組む際、市内の全児童生徒に調査をしたところ3,899人中3,848人から回答があった。インターネット環境が整っていないと答えた児童生徒は245人、6%であった。無回答は22人いる。

13. 日程7

○菅野教育長 協議に移ります。協議内容を3点いただいています。高野委員からお願いします。

○高野委員 協議1、3は関連するため協議2の中学生の通学時の背負い鞆の重量（8～10キロ）の軽減化の工夫についてから説明する。

下校時の中学生の様子を見ると、前屈みとなって歩いている。重さは約8キログラムから10キログラム程度。教科書が大型化、紙質の変化、ページ数増等が重なり重くなっている。学校には置いてはいけないと言われている。10キロ

グラムを背負う事は鍛錬にはなるが、成長期の子ども悪影響ではないか。毎日持ち帰るもの、学校に置くものがあるのではないかと思う。現状について説明していただきたい。

○熊澤学校教育課長 文部科学省から平成30年9月6日付、児童生徒の携行品配慮について通知があった。心身の健やかな成長に影響を生じさせかねないため、適切に配慮するようという内容。教育委員会からも学校に通知を出し、各校で対策を講じている。主に技能教科、辞書などは学校に置く配慮が各学校で行われている。さらに工夫改善の指示をしていきたい。現在、保護者から相談や苦情は入っていない。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。

○菅野委員 海外では教科書等を学校に全て置いていくという事を聞いた事がある。日本は宿題があるため、海外と同じように行う事は困難である。小学校で教材によっては持ち帰らなくてもよいと聞いたことがあるが、現状はどのようになっているのか。

○熊澤学校教育課長 小学校では、資料集などは学校に置いている。登下校に支障はないように見える。保護者からの相談ない。昨年度の学校評価の中で、学校全体として一覧表を作って、置いておけるものを明確にしたという学校もあった。

○三品委員 中学生の場合は教科書等に加え、部活の運動着なども持って歩いている。教科書がタブレット端末で代替できれば軽くなる。大きなタブレットを用意できれば、持ち歩く必要がなくなる。将来は、そのような時代になると思う。伊達市はどの程度のタブレットを用意する予定か。

○熊澤学校教育課長 A4程度の大きさのタブレットを用意する。

○高野委員 文部科学省から指示が来たということは、中学生の成長期への影響が懸念されるためであると考えられる。身体への影響が文書に記載されていなかったか。

○熊澤学校教育課長 具体的な影響については記載がない。日常的な教材の扱い方、学期末の教材の持ち帰りの工夫等については記載がある。

○菅野教育長 子どもの体力や脊柱側弯症などの関係性がある可能性はある。

○高野委員 持ち帰るべきものと、置いてもいいものがあると思う。検討して欲しい。

○田中教育部長 来年度からタブレットを使用した学習が始まるが、教材は電子化されていないため、タブレット分の約800グラムさらに重くなる。2024年の教科書改定で、教科書が電子化されるか議論されている。持ち帰るもの、学校に置いて良いものを検討していきたい。

○高野委員 紙の教科書の場合には、簡単に読み返しができる。しかしタブレットの場合は読み返しにくい。成長期の子どもの場合、活字に触れ、ページを繰っていく事も重要である。紙の教科書が良い部分もあるため、置き換わるもの残るものがあると思う。

○菅野教育長 子ども達が背負っている鞆は好ましい重さではない。子ども達が健康に成長できるよう学校に指導をしなければならない。

次に「伊達市総合教育センター」の具体的な構想案と設立に向けての今後の作業スケジュールと、伊達市の小中学生の基礎学力向上への具体的な取組みを関連させて高野委員から説明をお願いします。

○高野委員 先日の総合教育会議で話題となり、具体化になってきているのかと思う。第二次総合計画にも掲載されている。学習相談、進路指導等の問題を一元的に相談できる総合教育センターが伊達市に必要ではないかということを経年前から提案をしてきている。現実的には予算や建物の問題などがあり困難ということは分かってきた。今後の具体的な予定の内容などを聞きたい。関連して、伊達市の小学生・中学生の基礎学力をどのように高めていくのかというところとつながってくると考える。

○菅野教育長 総合教育センターと市の小中学生の基礎学力向上に向けて長期的な予定も含め、説明をお願いします。

○熊澤学校教育課長 平成26年度に策定された伊達市教育センター基本構想では役割を3つの柱とし、1つ目に子育て教育相談支援体制整備事業、2つ目に教職員研修授業、3つ目に特別支援教育体制整備事業とした。当初は梁川分庁

舎を利用するとしていたが現在は白紙となっている。平成26年当時から教育委員会では基本構想を作成していたが、市長部局と協議した記録が保存されていない。膨大な予算がかかるため、策定当時から現在まで進展がなかったと予想される。現在の課題として6つ挙げられている。1つ目は新学習指導要領の全面的実施の中で、主体的、対話的な深い学びをどのように具現化するか。2つ目はICT体制、緊急時の学びを保障する体制の構築。3つ目は家庭、地域の教育力低下に伴う、子育ての様々な問題への対応を強化する。4つ目は乳幼児期、小中一貫した教育関係部署と福祉関係部署との事業分担の再検討。5つ目は総合教育センターの設置場所検討。6つ目は組織人員の改編。6月に関係部署で集まり、平成26年度に作られた基本構想の内容を見直す協議が行われた。学校教育課が中心となり、10月までに見直しをまとめ、市長部局と来年1月までには協議を完了させる予定。令和3年度にどの様に進めていくのかを考え、調査研究をし、必要な予算の計上をしていく。

○**田中教育部長** 市長部局と昨年度から協議を行なってきた。総合教育センターは本市としても必要という認識を持ってもらっている。当初の構想から6年経過しているため、見直し、議案として教育委員会会議で協議をし、来年1月を目標に新たな構想として策定したい。

○**三品委員** 構想に時間をかけすぎるとスピード感がなくなってしまい、従来の行政と同様になってしまう。課題を全て解決するのではなく、教育に特化したことを先に行い、早く具現化する方法を考えてほしい。

○**田中教育部長** 十分検討していきたい。総合教育センターの基本構想は学校教育課内にある指導係の強化充実が基本となる。現在の体制で行えるものと、センターを立ち上げて充実させるものを分けて検討していく。

○**高野委員** 県立の特別支援学校が令和4年度に開園するが、普通学級で対応の難しい子ども達が増加しており、教員の負担が増え、介助員も配置されている。生活指導、学習指導、授業をどのように進めるのか、若手教員は相談せず、インターネットで解決しようとする。自らの考えで授業案を作成するのではなく、出来合いのもので済ませる若手教員が増加している。実際授業を拝見すると指導案通りに授業が進行せず、立ち往生する姿が見受けられる。新しい指導要領の中で、対応した授業をどのように組み立てるのかを悩んでいる。今現実に困っている教員にどう対応していけば良いのか。構想をまとめてからでは時間がかかる。大枠を定め、中身は随時固めていけば両立させながら進められる

のではないかと。

○菅野教育長 教員の指導力が向上することで、子ども達の基礎学力向上につながると思う。基礎学力の向上について学校教育課から現状も含め、説明お願いします。

○熊澤学校教育課長 全国学力学習状況調査、福島学力調査、伊達市学力調査の3種類を行っている。その結果を分析し、本市の課題を抽出すると3つ挙げられる。1つ目は読むこと。2つ目は英語。3つ目は記述式の無回答率が高いこと。今年度は自分の考えを書く活動、子ども達の話し合い活動を授業に盛り込んでいる。指導主事などが指導助言を行う活動を今年度から始めた。小中学校互いの授業研究を実施し、小中学校の差を無くす工夫をしている。全ての中学校区から教職員が参加する授業研究会を開催している。今年度は、コロナウイルス感染症対策のため、代表者による研修会の開催となる。また教職員研修も実施しており、読解力向上、対話的な深い学び、英語の授業について行った。全国学力調査、福島の学力調査が中止。そのため11月から来年1月実施予定の伊達市学力調査のみで成果の測定を行う。

○高野委員 相馬市の取り組みで、読解力がどの程度なのかをデータを元に分析をし、高めるという取り組みが新聞記事となっていた。市全体で調査に取り組んでおり、周辺では本宮市も行なっている。県内の進学校で調査をすると、4割程度の正答率しかない。文章を正確に捉える力が弱い。読解力を底上げしなければ、つまずいたまま進むことになってしまうのではないかと。各教科でつまづく所はどこか、それを克服するためには、何が必要かという集中的な取り組みが必要だと思う。記述式問題の無回答率が多いということは、考えがまとまらないため、点数につながらない。読み、書きを関連させ、読む力と書く力を高めていくことが必要ではないかと。自分でデザインをして、表現をするというトレーニングをしなければ記述は難しい。的を絞り、踏み込んで、基礎学力の改善策を行なってもらいたい。

○熊澤学校教育課長 相馬市で実施している取り組みは、上保原小学校で導入し、研究を進めている。来年度に向け、これまで取り組んできた学力向上策で足りない部分と必要な部分を分析し、新たな学力向上策を作る作業を進めている。

○田中教育部長 図書館事業については、読書の推進について委員から指摘さ

れており、来年度の1人1台タブレット端末導入に合わせて電子書籍を利用できる環境を整備する。学校にある図書だけでは、興味のある図書が少ないということ声もあり、インターネット接続が出来れば、自分の端末にダウンロードをして本が読めるようになる。読書習慣については、今後も市立図書館と連携しながら展開をしていきたい。

○菅野委員 ある職場で素晴らしい研究結果を上げている職員の報告書が稚拙であるという実態があった。これは読む力がないために、書く力もないのではないか。読む力があって思考力が伸び、書く力も伸びる。そのためには普段から家庭の中で文字に触れさせることが大切。家庭、地域の教育力が低下している中、学校教育の中で読む力を育てる環境づくりに力を入れてほしい。

○菅野教育長 伊達市は幼稚園、保育園では本に親しむ機会、読む力をどのように育てているかについてこども部より説明をお願いします。

○桃井こども育成課長 先日、保育士たち向けに読み聞かせの研修を実施した。印象に残った内容は、自閉症の子どもを面倒みている祖父母の話で、祖母が風呂と一緒に入るときに、祖母創作の話を聞かせるというコミュニケーションにより、自閉の改善効果が見られたということ。

その研修の際に推薦された図書の購入なども行なった。

○菅野教育長 教育委員会は教育部とこども部がある長所を活かす必要がある。幼少の頃から本に親しむことが読解力につながることを親にも伝え、小学校教員も就学前から本や文字に触れているという認識で子ども達に接することができるようにしていきたい。

○三品委員 科学的には4歳までの教育で知識が身につく容量が決まってしまうと言われており、4歳までいかに刺激を受けるかということが大切。総合教育会議で教育部とこども部で連携することについて話し合えると良かったと思う。

○菅野教育長 他に委員から意見はありますか。意見がなければ協議を終了とします

14. 日程8 報告

令和2年度 8月定例教育委員会会議 教育長報告資料

令和2年8月20日(木)

1 学校の適正規模・適正配置事業

- (1) 大石小学校の掛田小学校への統合に向けて
 - ① 令和2年6月12日(金): 大石小学校保護者会から同意書の提出あり
 - ② 令和2年7月29日(水): 大石ふるさとづくり協議会長から同意書の提出あり
 - ※ 今後の予定
 - 議会における学校廃止に関する議決の準備
 - 県教育委員会への手続き
 - 大石小学校と掛田小学校の児童の交流の場の工夫
 - 統合に向けた諸準備(通学方法、制服・運動着等、閉校式、教育課程の編成等)
 - (2) 霊山地区の新しい学校のあり方について検討
- 2 保原総合公園簡易宿泊所「とまっぺ」の管理運営事業及び通学合宿体験活動事業
- (1) 開所式 令和2年7月12日(日) 午前10時から
 - (2) 通学合宿体験活動事業
新型コロナウイルス感染症の影響により本年度は実施せず
 - (3) 施設の管理運営
 - ※ 供用開始[令和2年8月1日(土)～]以降の利用状況
- 3 各種行事等への参加と協力(豊かな人間性・社会性、健やかな身体、地域への誇りと愛着)
- (1) 県緑の少年団活動コンクール
奨励賞: 石田みどりの少年団
 - (2) 相馬福島道路現場見学会: 7月24日(金)
- 4 県立高校改革関連
- (1) 統合懇談会(保原高校と梁川高校の統合校)
令和2年7月13日(月)、於: 保原高校
 - 統合校の構想図(案)
 - (2) 定時制高校改革懇談会(保原高校定時制と福島中央高校の統合校)
令和2年7月30日(木)、於: 保原高校
 - 統合校の構想図(案)
- 5 特色ある取組み・・・月舘学園小・中学校
- (1) 月舘学園小学校: 5年生によるミニコンサート(6年生賛助出演)
令和2年7月17日(金)・・・中学校音楽教員の兼務指導
 - (2) 月舘学園中学校吹奏楽部3年生引退コンサート
令和2年7月31日(金)
- 6 寄贈
- (1) だて文庫へ 99冊(約10万円相当)の本の寄贈
伊達市在住 菊田 保氏より
 - (2) 梁川の民話CD
NPO法人沖縄伝承話資料センターより

7 その他

- (1) 7月教育長の部屋
- (2) 8月教育長の部屋
- (3) 新聞報道・学校だより等から
- (4) その他

○菅野委員 通学合宿所とまっぺは開所しているが一般利用は、どの程度されているのか。

○菅野教育長 後程、生涯学習課から説明致します。
各課からの報告をお願いします。

○土田教育総務課長

8月25日(火) 13時30分～ 第2回事務事業点検評価委員会

8月27日(木) 10時20分～ 教育委員・教育長研修会

○森林生涯学習課長

8月25日(火) 18時30分～ 市町村対抗野球大会壮行会

8月27日(木) 15時30分～ 図書館協議会

8月1日以降のとまっぺの一般利用は4団体が利用している。問い合わせはあるが、宿泊の予約までは至っていない。今後施設の感染防止対策が万全であることをアピールしていきたい。

○熊澤学校教育課長

報告なし

○桃井こども育成課長

報告なし

○こども部長

保育園等におけるICT支援について説明します。

東京の株式会社コドモンがソフトを開発し、梁川認定こども園、保原保育園にタブレット、カードリーダーを設置した。保護者には読取りのためのカードを渡した。登園退園の際にカードをカードリーダーにかざすことで記録が残る仕組みになっている。先生方の事務作業軽減、保育の質向上を目的に設置された。

1月あたりまで試験的に利用する予定。

○寺田こども支援課長

報告なし

○菅野教育長 その他あればお願いします。

○土田教育総務課長 伊達市教育振興基本計画第二期計画（案）の説明資料により説明

○田中教育部長 議案第33号の三品委員からの質疑への回答。地方創生臨時交付金は伊達市では10億7900万円、教育委員会は22.4%の約2億4100万円が割当られている。

○菅野教育長 次回の日程について事務局から説明願います。

○土田教育総務課長 8月27日に9月議会の予定が発表されるため、その後お知らせする。

○菅野教育長 本日の7月定例教育委員会は、16時49分で終了します。

15. 日程 9 閉 会 16 時 49 分

上記記録の正確なことを認め、ここに署名する。

令和2年8月20日

議事録署名人

3 番委員

4 番委員

議事録調製者 教育総務課総務企画係主事 大橋 勝